

フォーカス・リーディングを活用した読書指導が 大学生の読書習慣にもたらす効果

寺田 正嗣

(九州大学大学院・人間環境学府)

key words : 大学生 読書指導 フォーカス・リーディング 読書方略 速読

1.問題の所在と研究の目的

大学生の読書離れについて、全国大学生協連合会(2019)によれば、2018年の調査で大学生の不読率(過去1ヶ月間の読書数が0の者の比率)が48.0%に及び、約半数の大学生がほとんど本を読んでいない実態が示されている。

本研究の目的は、独自に開発した「フォーカス・リーディング(以下、FRと略す)」を中心とした指導により大学生に読書を促し、新たな読書習慣の構築を促すことである。FRとは、読書の目的や戦略的読書アルゴリズム¹に基づく下読み・理解読みといった下位目標に応じてフォーカスを設定し(読みを焦点化)し、理解度と読速度のバランスを、読み手が意図的、能動的に設定して読む読書技術である。理解が損なわれることを許容し、読みの速さを活用する。

2.研究の方法

Guthrie(2004)は、学生らを読書に没頭することを促す条件として、読書に対するポジティブ感や自己効力感を挙げている。本研究では、学生らがFRの活用により書籍を短時間に読み切る体験を積むことで、ポジティブ感や自己効力感を高め、読書習慣を変容させるか調査した。

なお、本調査では比較のための対照群を設けず、アクションリサーチとして介入的に調査をおこなった。

本研究における「読速度」は所定時間内に読み終えたページ数もしくは文字数で表し、「理解度」は、普段、丁寧に読んだときの理解度を85%と操作的に定義し、主観的に判断させた。この理解度については「主体的に読速度と理解度のバランスをコントロールする」ための内面的な指標(自己評価)を育てることを目的としており、読書演習を通じて内省的に理解の状態を自己評価させ、数値化させた。

2-1.参加者および日程

筆者の発行するメールマガジンで呼びかけ、全国から大学生47名の参加を得て調査をおこなった。講座は3日間の日程でおこない、その後3週間にわたりSNSのグループ機能²を利用して読書実践についてレポートさせ、FRの活用法について簡単なアドバイスを返

した。その後、サポート終了から1ヶ月後と、さらに3ヶ月後の時点で読書の実態をアンケート調査した。

2-2.指導の内容

3日間の講座では狭義のFRおよびそれを有効に活用するための4つの読書方略(重ね読み・TPO設定・構造把握・意味明瞭化)を体系的に指導し、FRとして完成させている。これらの読書方略はCaverly, Nicholson & Radcliffe(2004)等で示される読書方略および戦略的読書アルゴリズムを参考に考案した。

2-3.テストおよびアンケートの実施

FRの効果については、次の各要素により判定した。①講座を受ける前後に測定した「理解度85%に設定した通読の読速度」の結果(プレ、ポストテスト)、②講座後および読書実践のサポート後におこなったスキミング(構造・概要の把握にフォーカス)の読速度、③講座を受ける前と後にアンケートで確認した読書量(冊数)の比較、④読書に対する意識の変化についてのアンケート結果。

読速度のテスト(①)には、筆者および筆者の所属する研究室に在籍する研究者2人との協議により内容が平易で読みやすいと判断した自己啓発書(平均350文字/p)および新書(平均520文字/p)を用いた。スキミング(②)については、参加者みずからが準備した書籍を用いている。

3.結果

読速度に関するプレ/ポストテストの結果を表1に、スキミングの結果を表2に示した(ともにn=44)。

表1 自己啓発書の読速度の変化(単位は「文字/分」)

		プレテスト	ポストテスト
自己啓発書	min- max	420 - 2,333	1,199 - 7,194
	mean (SD)	1,026 (385.1)	3,772 (1,393.1)
新書	min- max	398 - 2,427	1,386 - 7,973
	mean (SD)	936 (391.9)	3,734 (1,406.2)

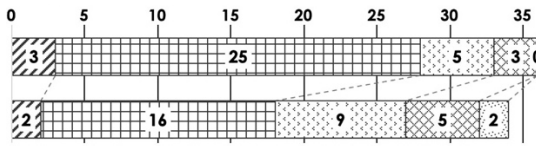
表2 スキミングの読速度(単位は「ページ/10分」)

		講座最終日	3週間後
min- max		39 - 300	55 - 329
mean (SD)		149.9 (50.4)	173.6 (75.6)

3週間にわたるサポートを受けながらの読書実践を終えて1ヶ月後、さらにその3ヶ月後に、読書の実

態についてアンケートをおこない狭義のFRおよび読書方略を活用できたか調査したところ図1のような結果となった。

■狭義のFRは活用できたか？



■読書方略は活用できたか？

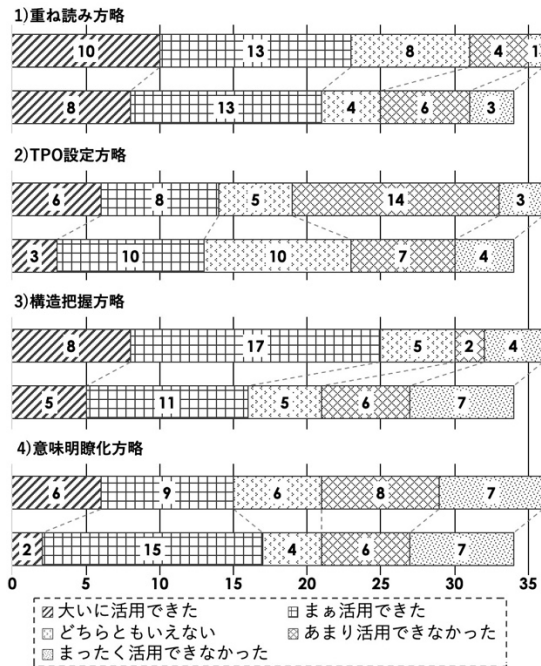


図1 狭義のFRおよび読書方略を活用できたか？
※グラフ上段が1ヶ月後 (n=36)、下段が3ヶ月後 (n=34)

3日間の講座および3週間の読書実践を経て、読書に対する意識がどう変わったのか多肢選択で調査した結果が表3 (n=37) である。

表3 3週間読書実践を経て読書に対する手応え・意識の変化

	人数	%
いっそう楽に、楽しくなった(P)	19	51.4
読書に対して自信がついた(高まった)(E)	20	54.1
さらに読書の質が上がった、または安定した(S)	12	32.4
さらにスピードが上がった、または安定した(S)	22	59.5
以前より読書が好きになってきた(P)	17	45.9
今まで以上に、読書に意欲的に取り組めそうだ(E)	23	62.2
難しい本でも積極的に取り組んでいく自信がついた(E)	13	35.1
それほどの手応えは感じられなかった(S)	0	0.0
かえって読書が難しく感じられた(P)	0	0.0

最後に、このような意識の変化が、実際に読書習慣に影響したかどうかについて、講座終了後の読書量(冊数)の変化をまとめたのが表4である。A)受講前、B)3週間の読書実践サポート、C)その後の1ヶ月間、D)さらにその後3ヶ月間という4つの期間の読書量

(冊数)をすべて1ヶ月(30日)に換算して比較している。この結果から、講座前と比較して約5ヶ月後の段階で、読書量が約3.7倍に伸びていることが分かる。

表5 読書習慣(月あたりの平均冊数)の変化

	事前 (入学から)	サポート期間 (3週間)	さらに 1ヶ月後	さらに 3ヶ月後
min-max	0 - 15	2.9 - 40	0 - 41	0 - 36
means(SD)	2.7(2.7)	21.2(9.6)	13.5(8.9)	9.5(7.8)
n	47	37	35	32

さらにDの期間に読んだ本の種類について、アンケートに回答のあった34人のうち6名が「難しい本には挑戦できていない」とし、残りの28名は「授業のテキストを積極的に読むようになった(量が増えた)」、「論文や専門書などの量をこなせるようになった」、「小説や教養書(古典やビジネス教養など)なども読むようになった」の3つの選択肢から複数回答を許可して選ばせたところ、3つすべて該当するとしたものが2名、2つが6名、どれか1つが当てはまるとしたものが20名という結果であった。

4.まとめ

以上の結果から、FRを活用した読書方略および戦略的読書アルゴリズムの指導により学生らは読書に対する意識(ポジティブ感および自己効力感)を変容させ、その結果として読書行動が促されたと結論づけられる。

先行研究では、大学生の読書量に大幅な増加が見られた例は見当たらない。その意味で、本研究の結果は、読書量の増加のみならず難しい本に挑戦しようとする意欲の発露が示されており、大学教育における読書指導、読書教育の一つの可能性を示すことができたという点で有意義な成果であると考えられる。

5.主な参考文献

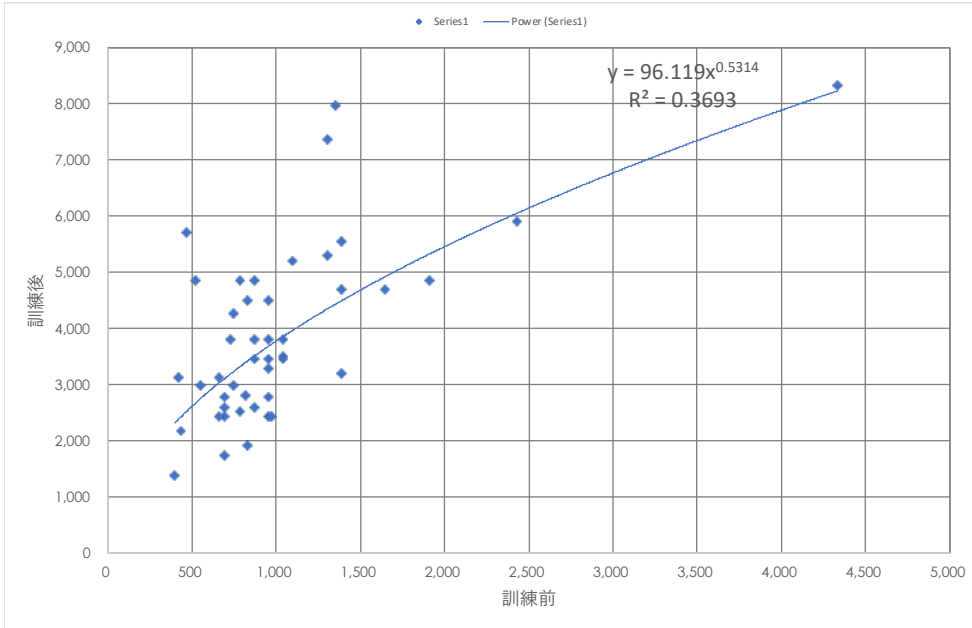
Caverly, D. C., Nicholson, S. A., & Radcliffe, R. (2004). The effectiveness of strategic reading instruction for college developmental readers. *Journal of College Reading and Learning*, 35(1), 25-49.

Guthrie, J. T., Wigfield, A., Barbosa, P., Perencevich, K. C., Taboada, A., Davis, M. H., ... & Tonks, S. (2004). *Increasing reading comprehension and engagement through concept-oriented reading instruction*. *Journal of educational psychology*, 96(3), 403.

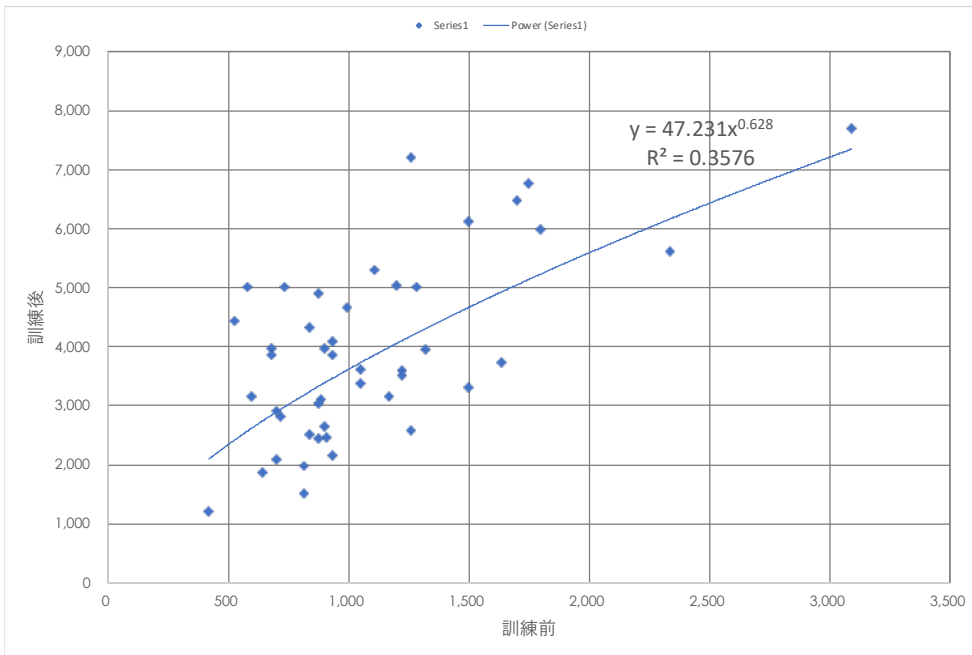
全国大学生生活協同組合連合会 (2019) 「第54回学生生活実態調査の概要報告」
<https://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html>(最終アクセス日: 2019.05.03)

1 Caverly, Nicholson & Radcliffe (2004) によればアルゴリズムとして複数回の読み重ねとして組み立てられた読書方略でありSQ3R, PQRS, PRORなど数種類のパターンがある。
2 SNS内に用意された、グループメンバーのみがアクセス可能なエリア。

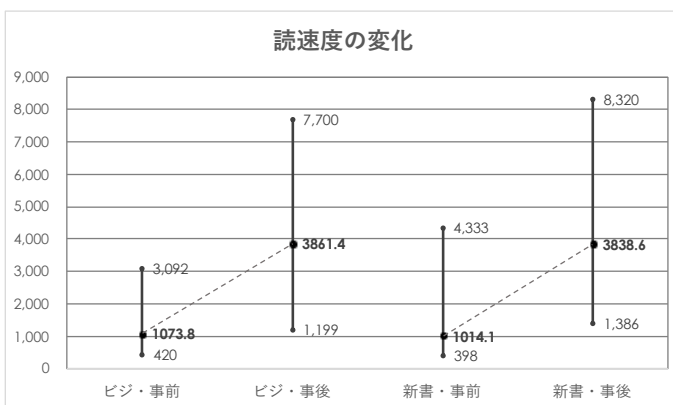
★新書の読速度（訓練前・訓練後）



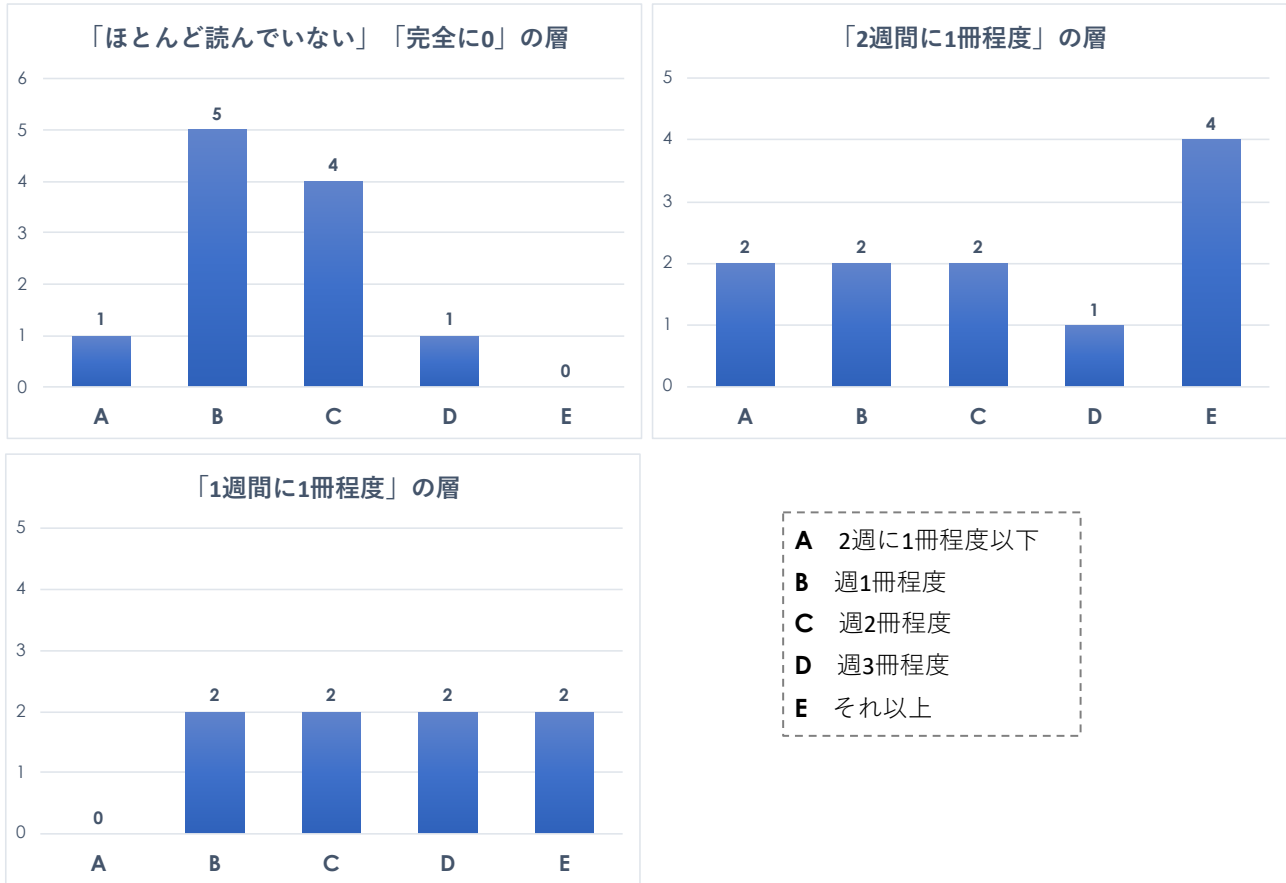
★自己啓発書の読速度（訓練前・訓練後）



自己啓発書（ビジ）と新書の訓練前後の読速度の変化



大学入学時からの読書量別、介入後約5ヶ月経過時の読書量



小学校高学年以降の読書量の分布の推移

